

ふるさと  
のわすれが  
たみ

# 古郷之忘形見

作…清野  
和也

◎登場人物

こんのわあん

近野和安

ひさはち

久八

かつら

瓦焼き長兵衛

おおきざか おおみの

大木坂の大美濃

ウチデ

以下民話上の出演（かつら以下の登場人物と兼ねることが出来る）

振袖娘

狐たち

村人1・2

伊達成実

ヨコヅナ

岡田庄太夫

子ども1・2

開演前。この上演において、和安以外の役者は受付や会場内の誘導を行っている。

このとき、現代に生きる人間として接して構わない。

開演時間直前の上演中の諸注意も出演者が伝える。

開演時間となり、久八が役者一同に声をかけ開演の準備が始まる。

久八  
それじゃあ、そろそろお時間だ！ 皆さんどうか、手はず通りに！

一同  
はい！

久八  
よろしく願います！

一同  
よろしく願います！

舞台は古い屋敷。上手側に木戸。下手に部屋が2室。

久八は扉から外に。それ以外の出演者は、部屋に下がる。

長兵衛、忘れ物をしたことに気づき取りに帰る。

長兵衛がそのまま舞台上に残されたまま開演。

久八の声に慌てて長兵衛帰ろうとするが焦って転んでしまう。

かつらが部屋から出てきて駆け寄り、長兵衛を立てさせて下がる。

以上のやり取りは一場の木戸の外でのやり取りと並行して行う。

一場

いつともしれない時代。

佐原村の近野和安の屋敷だった場所にて。

扉の外から久八と和安の声がする。

久八 さあさあ和安さま、こちらが玄関でございます。(扉を開けて長兵衛たちを見て、すぐに閉めて)

和安 なぜ閉める(開けようとする)

久八 (すぐにまた閉めて) いやいや、大事なことを忘れていましたーさあさあ、ただいまと大きな声で言うてくださいまし

和安 …うん。ただいま帰ったぞ

久八 もっと大きな声で！

和安 久八、良いか、あまり帰ってきたことを…村の者たちに知られたくないのだ。

久八 心配ありませんよ、和安さま。この屋敷に来るまでに人っ子一人会わなかったでしょう？

和安 それは…ああ、確かにそうだが…

久八 せっかくのご帰宅です。気兼ねなくおくつろぎ頂きますよう、この辺りに住む者はいま別のところに行っております。

和安 わざわざ、そこまで！

久八 この久八、それほどまでに待ちわびていたのです。さあ、さあ、大きな声でどうぞー！…さんはい

和安 ただいま帰ったぞー！

久八 はい、お帰りなさいませ、和安さま……みな、和安さまがお帰りになりましたぞ……！

和安 (少し呆れて笑いながら) なにを大声で騒いでいるのか。この家には私を待つ者など誰ひとりいないだろうに  
久八 いえいえ、この「家」が、この柱が、この囲炉裏が、この家の主人を、和安さまを待ちわびていたのです。

和安 ……(しみじみと) 変わらん

久八 和安さまが出ていかれてから、この久八、お言いつけを守り雨の日も風の日も雪の日も一日足りとも掃除欠かさず  
和安 いや、家がではなく。久八、お前が変わらないと。

久八 はあ、

和安 「家が待っていた」などとさも当たり前のように。まだ人ではないものに命を見るか？

久八 まだ、といいますか……見ております

和安 うん

久八 (あらためて) 和安様、はるばる江戸よりのご帰還、待ちわびておりました。お帰りなさいませ！

和安 ただいま。……少し間が抜けておるところも変わらん

久八 なにか落ち度が？

和安 先程の。この家の主人に「こちらが玄関でございます」とはとんだ話

久八 これは、失礼を

和安 いつとき手放したとはいえ我が家。玄関の位置など覚えておる。それを大きな声でこれ見よがしに  
久八 面目ない

和安 まるで誰か中にいるように、

久八 ……！

和安 久八、まさかお前！

久八 いえいえそのようなことは

和安 そのようなことは、どのようなことだ！

久八 いま、和安さまが思い浮かべているようなことです

和安 さつく言いつけたはずだ。この家はいつとき手放すが、必ず江戸で一旗上げて買い戻すと！

久八 承知しております。それまでの間、この久八めに預けると

和安 良いか、預けたのだ！この家を決して貸家(かしや)にはするなど、誰一人この家に住まわせてはならぬと、そう言ったな。

違うか！

久八 そのとおり！ですから、そのようなことは無いと！

和安 ……本当だな？

久八 さあ、どうかゆっくりおくつろぎくださいませ。寒くなってきました、火を入れましょうか。…あれー、どうされました？

和安 部屋を見てください

久八 お好きになさってください。そっちは

和安 そっちは？

久八 いいえ……どこでも好きなところをお探してくださいー！

和安 (すぐ戻ってきて) 久八! もしも誰かを住まわせていたことがあったら

久八 ありませんよ!!

和安 あったら! その分、家賃をもらっていたということになるな。その銭は! せめて私に寄越すのだ! 解ったか!!

久八 承知しました!

和安 (そっちではない部屋に移動する)

久八 ああああ! こっちに行かれる! 玄関から見て右手側に! いわゆる上手側にいかれるんですね!!

和安 (と見せかけて、左側、右側、やっぱり左側の部屋に行く)

久八 と見せかけて、見せかけて、見せかけない! ああああああ! ..... 残念、はずれです。

和安別の部屋に移動する。入れ替わりに和安が入っていった別の部屋の戸が開き、忘れ形見たちが出てくる。

かつら 久八、いったん外出てったほうがいいかい?

大木坂 もうちゃちゃつと顔見せりゃ良いだろお

久八 ダメだつて、大木坂さん!

長兵衛 困るよなあ久八。家賃払ってねえもんなあ、オイラたちは

久八 それはいいんですけど

かつら 払える銭持つてないでしょう、長兵衛は

長兵衛 銭がなくとも腕があるから問題ない。だろ？

大木坂 ちつともわからん！オレに聞くんじゃない

かつら それじゃ、いったん出てくからね、

大木坂 えー、寒いだろ、外

かつら そんな図体してなにいつてんだい！

大木坂 どっちにしろ和安と話しするんだろが！

かつら 世の中には順序つてものがあるつて久八さん言つてただろ。

長兵衛 オイラも別に構わねえと思うけどなあ

久八 ちよつとだけ待つてください。道すがら話したんですがね、やっぱり和安さま、なんにも気づいてないんですよ

かつら なんにも？

久八 ええ。和安さん、自分の身に起つたこと、なんにも

大木坂 バカだなあ、あいつ

かつら なんてこと言うのよ！

久八 今はこの家には誰もいないということになってますし、いきなり皆さんが姿見せたら、あの人のことです、怒つて話しにな

らない。だから、私がちよつとつまい具合に探つておくので、ちよつとの間だけ！

大木坂 外はやダよ、なあ？

長兵衛 うん、ホント寒いから



久八

家の中で良いですから、どこかうまいところに……あれ、ちょっと待って、ウチデちゃんは？

かつら

ああ、そう、それがね、

和安

(奥の部屋から)久八……

久八

は……い……隠れてエ……

かつら、長兵衛、大木坂隠れる

二場

久八 誰もいなかったでしょー？

和安 いなかった、当たり前だ。それより！この二冊。「奥州信夫・伊達二郡略年代記」「佐原村根元記」なぜここにある？

久八 借りてきたんですよ

和安 借りた！？門外不出と言っていたはずだ！それを安々と人に貸すとは！

久八 和安さま、この本たちには格別な思い入れがあるのでしょうか！

和安 しかしだ！軽々しく貸すとは！

久八 軽々じゃないです！腹切るって言っただんです！貸してくれなきゃここで死ぬって！むりー！やだー！って駄々こねたんです。そしたらあ、いいよおって貸してくださいました！

和安 …久八！この二冊は、私がこの生涯をかけて書いた本だ。

久八 ええ

和安 読んだか？

久八 いえいえ、私宛に贈られたものではありませんから

和安 読んでないのか？この傑作を！

久八 勝手に読んだら和安様怒るじゃないですか

和安 読みたいから、借りたのだろう

久八 …読んでほしいのですか？

和安 ほしいのではない。お前は読みたくて仕方ないだろうと！お前が話していたこともまとめてあるのだ。良いか。そこ。読んでみる！

久八 私のこととも？良いんですか。開きますよ…？怒らないでくださいね

和安 怒らんから早くしろ！

久八 「…元禄年げんろくに西原にしはらの久八は、福島へ行く。その夕暮れ、」和安さん、よりによつてこの話ですかー？もつとあるでしょう！

和安 ほれ、そこ、玄関

久八 えー…はいはい「西原の久八と振袖娘」の話！

以下、民話の中身を演じていく。久八の女房は和安が演じる

民話「西原の久八と振袖娘」より

久八 いやあ、随分と遅くなつてしまったなあ。かつかあ、帰ったぞ

久八の女房 ちよつとあんた！ここに座りなさい！

久八 へえ、なんでしょうか

久八の女房 さきほど、随分とべっぴんさんがいらしてね

久八 べっぴんさん。そいつあお目にかかつてみたかったね

久八の女房 あの花、いつたどこから連れてきたんだい！

久八 なにをいつてんだい

久八の女房 いつた福島の街になにをしに行つてゐるんだかー！

久八 なにつて仕事だよーなんだよ、そのべつぴんさんつてのがどうしたつて

久八の女房 あんたが来るほんの少し前さ、振り袖を来た女、ありや肌の感じ二十七、八つてとこだね…：がそこの玄関に来て

振袖娘がいつの間にか立つていて

振袖娘 久八様は街よりはや帰るべし

久八の女房 なんだい、あんた！なにもんだい！

振袖娘 久八様は街よりはや帰るべし

久八の女房 うちの旦那のことを知つてゐるのかい？

振袖娘 久八様は街よりはや帰るべし

久八の女房 ニコニコ笑いながらずっとそう言つたよ。中に入れて言つても入らないしねえ

久八 そいつはいまどこにゐるんだい

久八の女房 どこにつて…：ずっとそこに…：あれ、どこにいつちまつたんだらうね

久八&和安 ばけ物と見えたり

久八 もうちよつと無かつたですか！もうちよつと良い話！あつたでしょう、私なんかはもういっぱい残す話あつたでしょ！

和安 これが一番面白かつた

久八 なんですか面白かつたつて

和安 本当に化け物だつたんですかね？

久八 本当ですよ！

和安 じゃあ、載つてもいいじゃん

久八 くわああ！ああ！和安さんの話は差し障りない！

和安 いや、これも実話なんでね

久八 「筆者の家に狐の悪戯」の話！

民話「著者の家に狐の悪戯」より

久八 宝曆<sup>ほうれき</sup>年<sup>なかつ</sup>に中原<sup>なかつ</sup>の予<sup>よ</sup>の家<sup>や</sup>の前<sup>まへ</sup>の庭<sup>にわ</sup>に、冬の節<sup>ふゆのふし</sup>、夜半<sup>よるのなか</sup>、戸<sup>かど</sup>をたたき

狐<sup>きつね</sup>たちが出てくる

狐たち

とんとんとんとん

かさかさかさ

久八

と拍子を合わす音がする。

和安

明朝見れば狐のわざなり。

狐たち、以下の音にセリフに合わせて動く

和安

家の下駄を四、五足算木<sup>さんぎ</sup>ならべにして、薄雪<sup>はくせつ</sup>ふりければ四角に雪を踏み、畳二畳式ほどの広さなり。狐のふんところどころにあり。このあとおびただしく付けたり。なにかイタズラと見えたり。戸に叩きたる雪付けて有り。

久八

なんか、いい感じじゃないですか！狐たちが冬の夜、戸をとんとんとん かさかさかさ… ばけ者と見えたりとは大違いじゃないですか！

和安

久八！お前が私の文章に文句を言える立場か！慎め！

久八

申し訳ございません！

和安

こういつた狐や化物の話は、ほんの一部にすぎん。この本には、佐原の、荒井の、信達のあらゆる歴史がつまっている！それもこれまでのようなお侍さまの歴史ではない。我々、百姓の歴史だ！私はそれを残すのだ！…良いか！…

久八

はい

和安

この価値がお前にわかるか…！

久八 わかります！

和安 解ってたまるかアー！

久八 じゃあ聞かないでくださいよ

和安 久八、お前、父の名前が言えるか

久八 ヒサ蔵です

和安 祖父は

久八 トシ蔵です

和安 曾祖父は！

久八 えつと……解りませんよ

和安 嘆かわしい。自分の曾祖父の名前さえ言えないものが多すぎる

久八 はい……

和安 だが仕方ない！朝早くから田畑に出、細い体にムチ打ち働き、出来た米はお上に納め、手元に残ったわずかな粟・麦で暮らすしか無い。こんな余裕の無い営みでは、過去に思い馳せる暇などなからう。

久八 はい

だが久八、決して忘れてはならんだ。我々百姓たちは、たとえ虐げられ、虫けらのように扱われようと、百年の古より代々この土の上に生きていた。ここにあるように、この村を治めるお上がコロコロと変わろうとも、それだけは変わらなかつた。そつだらう！

久八

：

和安

なにか言いたげだな

久八

いいえ、そんなことは！

和安

お前は、この土地を離れたとそう言いたいのだな

久八

とんでもない！

和安

いいや、そつだ。お前の目がそう語っている！

久八

思つてませんよー！！本当に

そこにウチデが扉を開けてやってきて

ウチデ

あゝ！

久八

ああああ！

和安

なんだ、急に

久八

あああああああいやあ、心から謝りたくううううう！

和安

謝るのになんでそつちに行つたんだ

久八

それはー恐れ多くてー謝るときには心理的にも物理的にもディスタンスを取りたいのです！

ウチデ

ねえねえ、久八、和安が見えない



和安 誰がいるのか

久八 えー誰もいませんよー？

和安 やはりお前！住まわせていたな！

久八 そんなことありませんよー？

和安 どきなさい

久八 ……

和安 どきなさい！

久八 観念してウチデを前に出し

ウチデ 遊ぼう、和安

久八 和安様、どこから話して良いものか

和安 誰もおらんではないか

久八 ……え？

ウチデ 和安？

和安 まったく、お前は猫のようだな

久八 猫？

和安 なにもないところを、誰もいないところをジッと見る。薄気味悪いぞ。

久八 見えないのですか

和安 だから何が

ウチデ 和安、遊ぼう？

久八 ほら、ここに！

和安 なにを言ってるんだ。

ウチデ ねえ、どうして無視するの？

和安 ああ、なんだかお前の戯言につきあっていたら疲れてしまったな。

ウチデ …和安、嫌い！

久八 ウチデさま！

ウチデ退場、和安、三人が隠れている扉を開ける

和安 もう、休ませてくれ

久八 あああ、その部屋は！

三人がいるが和安は見えていないように

和安

大声で騒ぐな。今日はなんだかやけに頭に響く

和安奥の部屋に入る

三場

かつら どういうことだい？

大木坂 俺たちのことを見えてねえみたい

長兵衛 まあ、見たくないものは見えないもんよ

大木坂 どういうことだ？

長兵衛 オイ、うちたちのことを見たくない……つまりは忘れたんじゃない、この古郷のことをさ

かつら あ、和安がかい！？

久八 …いや、そつか。おかしいと思ってたんです。江戸に発つて二十年。あれだけこの地を愛していた和安さんが、いまこのとき

まで一度たりとも帰つてこなかった。

長兵衛 だが、久八さんよ。それなら俺達はどうなつちまうんだい？

久八 どうつて

長兵衛 和安さんがいたから、オイ、うちたちの存在があるんじゃないか？それなのに、和安さんが忘れようとしてるなら……。オイ、  
うちはいなくなつちまうんじゃないか？

大木坂 おいおいふざけんなよ！

久八 皆さんは和安さんだけが生み出した存在じゃありませんよ

かつら でもあんたが言つたんだよ。和安さんがいるから、明日も明後日も其の先も、私たちの存在が残り続けるんだって。

長兵衛 人の記憶なんておぼろげなもんさ。和安みてえな奴がいねえと、まあ、消えちまうかもな

大木坂 おい！和安――！おい――！

久八 大木坂さん――！なにを！

大木坂 無理矢理でも思い出させてやるんだよ！オレだオレだオレだア！

かつら やめなつて

大木坂 だってあんまりだア！生まれ古郷を、俺たちを忘れようとするなんて

かつら それだけ辛かったんだろう

大木坂 なにが辛いつてんだ

かつら 聞いてみなきゃわかんないよ

大木坂 じゃあ、聞いてみようじゃねえか。和安に――！なあ――！

部屋から和安が出てきて

和安 久八――！

大木坂 あ――びつくりしたあ

久八 はい、なんでしょう、和安さま

和安 誰もいないって言ったな？

長兵衛

おやあー？

久八

ええ、そうですが

大木坂

なんだちゃんと見えてんのか！？

和安

（大木坂の存在を完全に無視して）なんだこの酒は！

長兵衛

アヤ、私の酒

久八

ああ、それは、その、和安さまのご帰宅のお祝いにと

和安

酒はやらん、博打も打たん、女遊びは二度二度！真面目一筋七十年！そんなことはわからんお前ではあるまい！誰か住ま  
せておつたな。いや、これは栓も空いておらん。住まわせておるな！

大木坂

ああ、俺達だよ！眼の前にいるだろうが！

久八

和安さま。どうして戻ってきたんです

和安

なに？

久八

どうしてこの古郷に戻ってきたんですか

和安

そんなことはどうでもいいだろう！この酒と、お前がオレについた嘘と！なんの関係があるんだ

久八

あるんです、それが。ですから、答えてください

和安

なんだやけに神妙に

久八

大事なことですから

和安

古郷に帰ってきてなにか悪い

久八 古郷が懐かしくなつたんですか

和安 そうだ

久八 そいつは嘘だ

和安 なにをオレの心内を覗けるものか

久八 …あなたはいつだってそつだ。踏み込もうとすると、離れていく。…和安さん。昔話、聞かせてくれません

和安 話をそらすな

久八 ちつともそらしちゃいけません！…和安さまは下戸で飲めないが、酒の席ではお話を語ってくれた。吾兵衛で、愉快なお

ひとの話を。私はあのひとの話が好きでね。その人がね、呑んでる酒なんですよ、それは

誰のことだ

久八 瓦焼き長兵衛さん

和安 長兵衛

長兵衛 忘れちまつたかい？

久八 二代目・宝正院さまほうしやういんの頃の話だ。かわら焼の長兵衛という腕の良い細工人が江戸からこの村にやってきた。「瓦焼き長兵衛」

の話！

民話「瓦焼き長兵衛」より

長兵衛

あ、いや、かわら焼きのなんて呼ばれちゃ恐縮なんですがね。あつしには師匠と呼べるお方ア、おりゃあせん。焼き菓つてのも使い方がわかりやせん。ただ、松の葉っぱを焼いたもんでね、慈徳寺さまやら、陽林寺さまやらお寺さんのお仏像様をちよいと借りて、真似事をつくってみやした。こいつが随分と評判になりましたね。

村人1

あんたが長兵衛さんだね、

長兵衛

ええ、ああ、そうですか

村人1

お寺さんから仏像さまを借りて、よく似たものをつくったとか

長兵衛

アイヤ、こりゃ、悪いことをしちゃったですかね…。ただの手遊びでね、どうかご勘弁、ご容赦を

村人2

なにも怒ろうってわけじゃないんだ

長兵衛

へえ、それじゃあ？

村人1

原の観音さまがずいぶんと朽ちてきてしまつてね。あんたに作ってもらえねえかつて話ししてるんだよ

長兵衛

そんな、だつて、あつしみてえなどこの馬の骨とも解らねえやつに

村人2

腕は確かだろう

長兵衛

河原に住んでるようなやつですぜ

村人1

わずかしかなえが、村から米と銭をやるつ。悪い話じゃないだろう？

長兵衛

そりゃあ、ありがてえけども…。本当に良いんですかい？

村人1

ああ

長兵衛

こいつあ、気合い入れて作らなきゃならねえな！



和安

そうして瓦焼き長兵衛は、原の観音さまと、入佐原の虚空蔵さまの仁王におうさま、唐獅子と亀もつくった。村中から請われて、恵比寿大黒天までつくつてな、

長兵衛

まさかこんな縁もゆかりも無い地で、ひとさまの役に立って生きられるたあ、幸せなこつたなあ…。

和安

この男、大酒呑みにて祝儀日には村を歩き、酒などを振る舞い候えば

村人1

ああ、長兵衛さん！今日は祝いの祭りの日！酒の振る舞いがありますよ！

長兵衛

こいつがなによりもたまらねえ。あつしの血は酒で出来てるんだなあ！

村人2

それぞれどうぞ！

和安

めでたくよくうたいけり

長兵衛

ああ、めでたけれめでたけれ！

あ、ソレ！

長兵衛、盆踊りを歌い踊る

♪佐原恋しや 韋駄天さまよ

ほのぼの見えます 桜花

踊りさ中に 誰が茄子なげた

茄子のとげや ソレ手にささる

踊り見にきたか 立見にきたか

「ここは立見の場所でない♪」

死がいは原の墓に埋め、しばらく其上に手本の御影みえい(彫刻)を置き施すに、この御影仏、朽ちたり

和安

久八

長兵衛

私は長兵衛さんが好きでね。お江戸からどんな事情があつてこの村に來たかは解らないが、最後はこの土に還つた。

和安さんは、江戸の土に還るんですかい？

和安

オレは古郷の土には還れんだろうな

長兵衛

おお、和安さん！

久八

聞こえますか、見えますか！

和安

何を言つてるんだ

久八

ああ…なんだ…

和安

長兵衛はどうして帰らんかつたんだろうな、江戸に

久八

この村が好きになつたからじゃないですか。和安さまが愛したこの村を

長兵衛

ええ、

和安

愛した

久八

違うんですか？

和安

…江戸は良いところだつた

長兵衛

そうだねえ、活気がある

久八

江戸ではたしか易者をされていたとか

和安

そうだ。とにかく人が多い。それもやけにおせっかいな奴らばかりでな。芝居もたんと見た。

久八

そうですか。

和安

とにかく家がずらーって並んで立っている。だから火事でも起きてみる。すぐに燃え移ってしまう。…江戸の大火はひどかった。

久八

和安さんも、大火にあつたと

和安

…この二冊はな、この佐原村にいるときに、この足と耳で集めたものだ。これが江戸での私の心の拠り所だった。古郷がある、古郷がある。…だが、その二冊が大火で焼けて失った。灰になってしまった。燃えた屋敷の跡、確か閉まってあつたのはこのあたりだ。ああ、この灰か。この灰が私のふるさとか。ああ、私の古郷が無くなったと思った。

久八

変わらずここにありますよ

和安

いいや、なくなってしまったんだ。あのときから。いや、事業に失敗し借金を背負い、この村を逃げ出したあの日から、この村を捨てたあの日から

久八

……焼けたって、この本は？

和安

…もう一度書き起こしたんだ。灰になったままであるのがしのびなくてな。老眼で目も見えん。だが、思い起こし、この手で書いた

久八

…

和安 ……ん？目が霞まぬ、足腰が動く。なぜオレは老いておらんのだ…オレはなぜ、この村にいるんだ？

久八 和安さん、

和安 ……！(誰もいない一点を見て)ああ、あああ…！久八、誰もいないと言ったではないか

久八 ようやく見えますか

和安 申し訳ございません、申し訳ございません…申し訳ございません、申し訳ございません…

久八 和安さま？

和安 (気を失って倒れてしまう)

かつら 出てきて

かつら 和安！？

久八 和安さま、和安さま…！

かつら 長兵衛！濡らした手ぬぐいを！

長兵衛 へい！

久八 和安さま…！和安さま…！

かつら 騒がなくていいよ、大丈夫だから

長兵衛 え、そうなの？大丈夫？

かつら そりゃそうだろう。これ以上、悪くはならないだろう

長兵衛 あ、そりゃそうか心配して損した。手ぬぐいもいらない？

かつら 一応、見せかけでかけときな

長兵衛 へいへい

久八 そうですよ…。これ以上悪くなりようがない。倒れる理由もない。……あの誰かいましたかね？

長兵衛 和安が見てた方かい？いいや。いなかったね

久八 ですよ。私らに見えないってことはないんじゃないかな

かつら 和安にしか見えないモノがあつたってことかい？

久八 和安さんの心残り。あつちに残した忘れ形見。なにが見えてるんでしょう

長兵衛 その心残りが解れば、あつしらのことも見えるようになるかもしれないねえ

久八 古郷のことを、忘れてるわけはないんですよ。江戸の大火の災難のあとも、こうして思い返して残している。

かつら でもそれはどこか逃げている気もするね

久八 逃げている？

かつら ああ、書くことで、逃げ出した古郷に言い訳をしている。

四場

入口の戸が開き大木坂が立っている。手には刀

長兵衛

大木坂？なんだ、そんな物騒なもの持つて

大木坂

遊んでくれない和安は嫌いだ

長兵衛

おやあ？

大木坂

和安なんて嫌いだ

かつら

取り憑かれてるね、こりゃあ

久八

ちよつと――和安さん、起きて――寝てる――場合じゃ――！――ないです――！――

大木坂、玄関の刀を振り回す

和安

ああああ――！刀が浮いてるううう――！――

久八

どうすりゃいいんでしょ――！――

かつら

とりあえず大木坂に正氣に戻ってもらわないと

長兵衛

水でもぶっかけるか――！――？――

久八 大木坂さああん……！

和安 大木坂……？

大木坂 (動きが止まる) 和安

かつら 止まった！

大木坂 和安なんて嫌いだ

かつら 戻った！

和安 じゃあああ

長兵衛 でも一瞬取り戻した！大木坂さんのことを思い出してもらえば良いのかもしれないぞ……？

久八 なんで……？

かつら 久八！なんとかするんだ

久八 こんなときになんですが、和安さん……！大木坂の大美濃さんを覚えてらっしゃいますか……！

和安 大美濃オ……？

久八 そう、大美濃……！

和安 えっと

大木坂 和安……！

久八 思い……出して……早く……！

和安 あれか！宮林の……水門に……大石があがっている……！あれをたった一人で上げたという……！

久八

そう！！話して！その！！話！！「大木坂の大美濃の話！」

民話「大木坂大美濃の大力」より

和安

萩坂阿部美濃はぎざかのみと云う人は、大力大兵にて、他所より女や子供を奪い来たり、宮林の大木松に繋ぎ置き、売りに出し候由。

村人1

ここいらに…ほうら、見てみる、この大木に刺さったマサカリ！

村人2

これが、大美濃さまのマサカリか

村人1

抜いてみる

村人2

え！

村人1

選ばれしもの以外誰も抜いたやつはいねえ…

村人2

そんなエクスカリバーみてえな。よおし、やつてみるぞ！うおおお！だめだちつとも抜けねえ。どんだけ深く刺さってんだ

大木坂

昨日は軽く刺したんだがな…。よいしょー！（軽々と抜き）

村人1

いやあ、さすがは美濃さまだ！

村人2

こりゃ、もしかすると、勝てるかもしれねえな

大木坂

何の話だ？

村人1

こんど、大森のお殿様の伊達成実だてしげさねさまのところですよ、賭け相撲があるんだ





伊達成実

それでは！はつけよい！のこった！

村人1

いやあ、ありゃあ、驚いたね。取り組みが始まった瞬間だよ。美濃は、軽々とドドスコを軽々と差し上げた。あのときのドドスコの顔といったらねえ、それから、地底にだよ、ぐわあと打ち込みしまった。ドドスコはもうぴくりとも動かねえ。あまりの一瞬のことに、しーんつとなつてね、そこからうあああだよ、隣の全財産を賭けたやつなんかは卒倒しちゃってね…殿様も大喜びさ！

伊達成実

褒美を与える！

大木坂

ははあ！

伊達成実

阿部美濃…！今日から大美濃と名乗るが良い！

大木坂

ははああ…！

伊達成実

それからお主、我が伊達軍に入らぬか！戦国の世でもお主の力は百人力よ！

大木坂

これは、願ってもない言葉！オレのような百姓がお侍様になれるとは！かたじけのうございます！

伊達成実

ともに天下を目指さん…！

大木坂憑き物が取れている

長兵衛

止まったねえ

大木坂

…ああ、面目ねえ

かつら  
ウチデだね

大木坂  
ああ

和安  
何だったのだ。今の刀は

久八  
なんでもありませんよ。

和安  
気が触れてしまったのか、俺は

久八  
そんなことはありません。大美濃さまがすこしご乱心ただけです。もう落ち着きました。

和安  
大美濃。敵しい祖父にな、云うことを聞かないと、大木坂の大美濃に攫われるぞとよく脅された。

久八  
ええ。でも憧れでもありました。百姓にすぎなかった男が、伊達さまに仕え、百人力の英雄となった。

和安  
：ああ(またなにかが見える)

久八  
和安さま。またなにかが見えるのですか？

和安  
：

久八  
私たちには見えません。

和安  
私たち

久八  
ええ、まだ見えませんか？

和安  
顔のない、ひとの姿が見えるのだ。そこに。じっと、見ている。こちらを。…今に始まったことじゃない。江戸にいる頃から、

久八  
この影に悩んできた。

久八  
それはどんな姿を

戸がカタカタとなる音

和安 ああ、泣いておる。……返せ返せと泣いておる。

久八 泣いて？

和安 ほうら遠くの方から、風にのせて、ああ、あれはかつら様の声か。ごおん、ごおんと泣いておる。

久八 かつら様。覚えておいでですか

和安 まだあのかつら様は立っておるのか

久八 まだ、いまでも、立っております。

和安 そうか。

民話「田中内の桂の大々古木」より

和安 田中内たなかうちうば神御社にかつらの大々古木だいたいこぼくあり。その太さは、

村人たち ひとり、ふたり、さんにん、よにん、ごにん、ろくにん、ななにん、はちにん

和安 人間が八人、手を繋いで回してみるほどである。その昔、地主様がこの桂の木の枝で、鉢くわを作り、康善寺こうぜんじに遣わした。するとそれより毎夜夕方より

村人たち

「ごん、ごん

和安

と不気味な音がするようになった。村人たちは、どこから音がするのだろうと近寄っていった。すると、桂の古木が泣いているではないか。

村人たち

「ごん、ごん

和安

その音は、言葉に変わって聞こえる。

かつら

その鉢を返せ、その鉢を返せ

和安

白髪のうば神現じて、呼びたもう。

村人たち

「ごん、ごん

かつら

その鉢を返せ、その鉢を返せ

和安

地主、御ばちを受け候。それからというもの、村人たちはこの木を伐ったりしなくなり、かつら様と拝むようになった。いまでも、この大木に立ち沿い、気を静めて聞くに、ふしぎに、「ごん、ごん」と音あり。

村人たち

「ごん、ごん ごん、ごん

和安

この大木は信達三郡に第一の大々古木なり

和安

ずっと返せ、返せと鳴っている

久八

なにを返せと？

かつら

言っちゃいないよ、

久八 かつら様はなにも求めちゃいませんよ

和安 …古郷を、この古郷を。オレが手放してしまった、先祖伝来の地を、この土を。ご先祖さまが言っておる。古郷の奴らが俺を呼んでいる。逃げおつて、逃げおつて。お前が失敗した。お前が売った。生涯の恥、死してもなお償いきれん！

久八 忘れ形見

和安 まだ開かれてもいないこの土地を、開き耕し田畑にしたご先祖様に俺は頭が上がりらん。死してなおこの古郷を守った太郎右衛門様に顔向けが出来ん。見んでくれ、そんな目で見んでくれ

かつら 和安。大丈夫だよ

和安 俺は、太郎右衛門さまにはなれなかった。俺だつてかつては、この村のために命を捨てても、添い遂げる覚悟があつた。あつたはずだ。

久八 太郎右衛門さま。この本にも一番長く書かれていました。

和安 残さなければならぬと思つた。父が名主だつた頃、太郎右衛門さまは江戸に登つた。

久八 「義民太郎右衛門」の話

民話「義民太郎右門」より

和安 あら田口の芝山を獄門場と申す事は、享保十四年、佐原の内、三代の佐藤太郎右衛門、困窮故に村々百姓より頼まれ江

戸へ越訴つかまつり、この地にて獄門となつた由。

久八

その年は長雨の影響で凶作でした。しかしときの代官は年貢を上げ百姓たちは困窮。ときの百姓代、佐藤太郎右衛門さまは代官所に年貢の減免をお願いしました。

和安

お代官様が治める信達二十五ヶ村の百姓に代わり、嘆願させていただきます。このたびの長雨で田畑は凶作、自分たちが食べるものさえ、ままならず困窮まさにここに極まり。妻子を売るもの、餓死するものすらでる始末。子ども、老人は虫の息……。このままではこの村は立ち行かなくなってしまう。何卒、ご慈悲により、年貢の減免をお願い申し上げます

岡田

お主ら百姓どもの願い、毛の一本すら聞き入れるつもりはない。虫けらのごとき、お前らが何故に生きていられるのだと思っているか？すべては上様のおかげぞ。たとえ天変地異にあおうとも、肉を削り、骨をしゃぶり、血をしぼりて、お上に差し出すのが上納の米よ。これすら出来ぬ人ではあるまい。家畜のごとくワラを食えばよろしい。以上だ

久八

嘆願は聞き入れられず、太郎右衛門は当時禁止されていた藩を越えた直訴、江戸への越訴を行いました。百姓たちを救うためお上に直接、救いを求めましたが、捕らえられ、あら田出口にて打ち首獄門となりました。

和安

(太郎右衛門辞世の句)

人の為 登る我が身の うれしさに

思いしれかし 信夫人々

人の為に死する我が身の命かな

うらみとやうらに思わざらまし

一たびは死なで叶わぬ命なり

西の浄土へすぐに行くべし

和安 太郎右衛門さまの、辞世の歌。…私も…私もこんな生き方をしたかった。こんな言葉を残したかった。だが、なにも

大木坂 なにも？それじゃあ、俺たちはなんなんだ

和安 (今度は確かに見えている)

大木坂 お前が残したものだろう

和安 俺がじゃない。俺じゃなくてもいい。俺が伝えなくても残っていく

大木坂 そりゃあ、お前が、じゃなくなつていい！ だけど、だってお前もいたから俺達がいるんだ。

和安 うるさい！第一、俺にはそんな資格はないんだ。一生、戻って来たくなどなかった！どうして俺はここにいるんだ！

久八 一生が終わつたからですよ

和安 …

久八 そして、それでも、あなたは、この地を求めていたからです。解つておいででしょう。

ウチデが出てきて

ウチデ 和安、遊ぼう

和安 …



ウチデ  
遊んでくれない和安は嫌いだぞ！

久八  
和安さん、お聞かせください。

和安  
打出の虚空蔵さま。

久八  
「入佐原の虚空蔵」の話。

民話「入佐原の虚空蔵」より

和安  
入佐原、打出の虚空蔵は、昔、御作ぎよさくの木造なり。古の大門は西に向かいて高橋和泉たかはし いずみの屋敷付きなり。後ろ口のかに沢川に片

子ども  
目のうなぎ住しける田、人々の願いかなわせ給うなり。…昔、  
それ、どうだい、楽しいが？

村人1  
おーい、坊！なにを田んぼのなか引きずってんだ？

子ども  
遊んでけれって言ってたの！

村人2  
だからなにを引きずってんだって聞いてんだ

子ども  
遊んでけれって言ってたの！

村人1  
おや、こりゃ、打出の虚空蔵さまでねえか！

村人2  
なんてばちあたりな！このバカもんが！

子ども  
だって、遊んでけれって！

村人1　　いますぐ水で清めねえと

村人2　　ああ、ほれ、お前もぼーつとしてんじゃなくて謝れ！ほれ！

子ども　だつて、遊んでくれって！

村人1　　謝れ！頭ちゃんと下げるー！

和安　　その夜、虚空蔵お怒りありて、里人、人々をいため給う。

ウチデ　　汝（なんじ）ども！汝（なんじ）ども！

村人1　　ああ、打出の虚空蔵さまだ！

村人2　　とんだ失礼を！この坊もこんなに反省してます

村人1　　どうか勘弁してやってください！

ウチデ　　怒っているのは、お前たちにだ！

村人1　　はあ…教育がなつてませんで…

村人2　　面目もございません！

ウチデ　　違う！

村人1　　お前の洗い方がよく無かつたんでねえか！ゴシゴシって！

村人2　　いやいや、こりゃあたいへん失礼しましたー！ゴシゴシって！

ウチデ　　違う！せつかく子どもと遊んでいたのに、汝どもが取り放った！面白からず、面白からず！

村人たち　これはとんだ失礼を！お許しあれ！

和安

奇態不思議なり。  
きたい

ウチデ

和安、遊ぼう

和安

…(なにかがこみあげてきて言葉に詰まり)…うん…うん…いいぞ…

大木坂

ほら、シャキッとしろ！

長兵衛

和安さん。オイラ、大美濃さんみてえな英雄じゃねえ、ましてや太郎右衛門さまみてえな立派なモンでもねえ。酒飲みで、

本当は職人でもねえのに、たまたま好きなことで人さまに喜んでもらえて、こんな本に残してもらって。普通に笑って泣いて怒って生きてきた人間よ。だけど、そういう人間ばかりじゃねえのかい。世の中つてよ。江戸だつて、この村だつて

かつら

長い長い年月、私がね、桂の木がね、立つていられるのは、そういう普通の人たちが守ってくれたからだよ。

久八

普通、普通、普通つてね、あんた方！ あんた方が言っても、なんの説得力もないですよ

かつら

久八

久八

あー、もう。和安さん、あんたが羨ましい！というか、妬ましい

和安

久八

久八

普通つてのは俺みたいなのを言うんでしょう。『ばけ物と見えたり』くらいの登場人物だ。和安さん、あんたのほうがよっ

ぽどだろうが！こんなもん残して！ちゃんと愛しているのに、それなのに、古郷にも帰らず、ウジウジウジウジ、蛆虫か！

長兵衛

久八さん

久八

だいたいね、和安さんが一番解ってるんじゃないですか！ 普通の人間の尊さを。ほら、ここに名前が連ねて書いてある。

本来、名も残らないであろう百姓たちの名前が。この普通の人たちがいたから、いま僕らがいるんじゃないんですか。英雄譚や、不思議な話と同列に、これだけの名が書いてるんだ。これだけの名前が尊いと――！

登場人物たちが、ただの百姓たちの名前だけをひたすらに呼びかける

久八

この村に帰ってこなかったのは、いろんな事情があつたんでしょう。ご病気をされてたのかもしれない。家族があつたのかもしれない。やつぱり忘れたかつたのかもしれない。だけど、古郷は待つてましたよ、ずっと。あなたを。

和安

…すまない、すまない…ありがとう…

大木坂

あんまり甘やかすんじゃないぞ

かつら

いいや、私たちは甘やかしてやっていいんだ

大木坂

かつら

かつら

古郷だからね。この村の土も、川も、風も、山も、姿かたちは変わつても、決してその根っこは変えられない。その上に残つた私たちの物語も、忘れられない限り残り続ける。私たちは決して見捨てないよ、あんたを。

和安

…なあ、久八

久八

はい

和安

俺はここには立ち寄つただけなんだな

久八

ええ。忘れ物は見つかりましたか？

和安 忘れ物じゃない。忘れ形見が見つかったよ。

久八 先に進めそうですか？

和安 ああ。お前は？お前たちは？

久八 私たちはもう少し後から行きます！ お先にいつてらっしゃい

和安 そうか

ウチデ バイバイ！和安！

和安 ああ

和安旅立ちをする背中にスタッフ含め座組一同で贈る言葉

一同 和安さん。和安さん。あなたが生きた二百年後、あなたが愛し、あなたが離れたこの土の上で 二百年後のこの今に

息を吸って吐いてしている 私たち あなたが残した 忘れ形見が あなたへひとしきりの拍手を贈ります。

私たち一人ひとりが、あなたへとひとしきりの拍手を 贈ります！ 拍手！ 拍手！ 拍手を――！

幕

本作は、近野和安著「奥州信夫・伊達二郡略年代記」「奥州信夫郡佐原村根元記」(1773年ごろ)を主要参考文献としています。また、橋本邦推著「故郷之忘形見」の二書の解説も参考とし、執筆しました。